

## 「脳梗塞の再発予防～抗血栓薬治療について～」

城里町国保七会診療所 上井 雅哉

脳梗塞には、頸動脈、脳動脈などの動脈硬化を背景に発症するタイプと、心房細動と関連する心原性脳塞栓とがあり、予防に用いられる薬剤が異なります。

### ○動脈硬化性の脳梗塞

頸動脈や脳動脈などの血管が動脈硬化によって徐々に狭まり、完全閉塞に至ると発症します。

動脈硬化性の脳梗塞では、血小板が血管に貼り着き、また血小板同士が固まるのを抑える目的で「抗血小板薬」と呼ばれる抗血栓薬が使用されます。

### ○心原性脳塞栓症

不整脈（心房細動）がある方は、心臓の中にできた血栓が血液とともに流れて移動し、脳血管に詰まることにより心原性脳塞栓症というタイプの脳梗塞を起こしやすくなります。この病気は、突然発症して大きな脳梗塞を引き起こし、重症になりやすいので再発を防ぐことが特に重要とされています。

心原性脳塞栓症では、血栓をできにくくする効果の高い「経口抗凝固薬」が使用されます。

この抗血栓薬は、ビタミンKを豊富に含む食品（納豆、青汁など）と一緒に摂取すると薬の効能が低下し、一方ある薬剤と併用すると効きすぎることもあるため、医師の管理のもとで定期的に血液検査を実施し、服用する量を適切に調節する必要があります。（最近では、食事の影響のない経口薬も登場しました。）

※本文中、「抗血栓薬」は血液凝固を抑える薬剤の総称として使用しています。「抗血小板薬」や「経口抗凝固薬」はその中の一部であり、さまざまな名称で販売されている薬品を効能別に分類した場合の分類名として使用しています。

### 抗血栓薬による治療の注意点

#### 1、指示の通りきちんと継続すること

平成25年3月号で一過性脳虚血発作を紹介しましたが、症状が消えても抗血小板薬の投薬を継続することが再発予防には重要です。

#### 2、投薬中は出血に注意が必要です

血栓予防の治療中は、出血すると血が止まりにくくなることがあるため、けがなどにより出血した場合は速やかに主治医に相談すること。また、出血が見込まれる治療（内視鏡検査や歯科治療を含む外科的処置）を受ける場合には、担当医とよく相談（※）してください。

※再発のリスクを防ぐため、病状の安定性と処置の程度を慎重に検討のうえ、予防薬を中止せずに検査、処置を行える場合があります。医師にご相談ください。

#### 3、水分補給を忘れずに

夏季は脱水を契機とした脳梗塞発症の危険があります。予防薬を内服していても水分を十分に摂取するよう心がけてください。

## 茨城県母子家庭等就業・自立支援センターをご利用ください

茨城県母子家庭等就業・自立支援センターが6月1日にオープンしました。

この窓口は、ひとり親家庭等（母子家庭、父子家庭、寡婦）の皆さんの自立を支援するために茨城県が設立し、茨城県母子寡婦福祉連合会が茨城県の委託を受けて運営しています。

無料で職業相談、職業紹介、生活相談、求人情報提供など行っておりますので、お気軽にご利用ください。

**所在地** 水戸市三の丸1-7-41（いばらき就職・生活総合支援センター 3階）

**相談日** 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時30分  
土曜日 午前9時～午後5時

**問合せ** 茨城県母子家庭等就業・自立支援センター ☎029-233-2355（FAX兼用）

**HP** <http://www.ibaboren.or.jp>